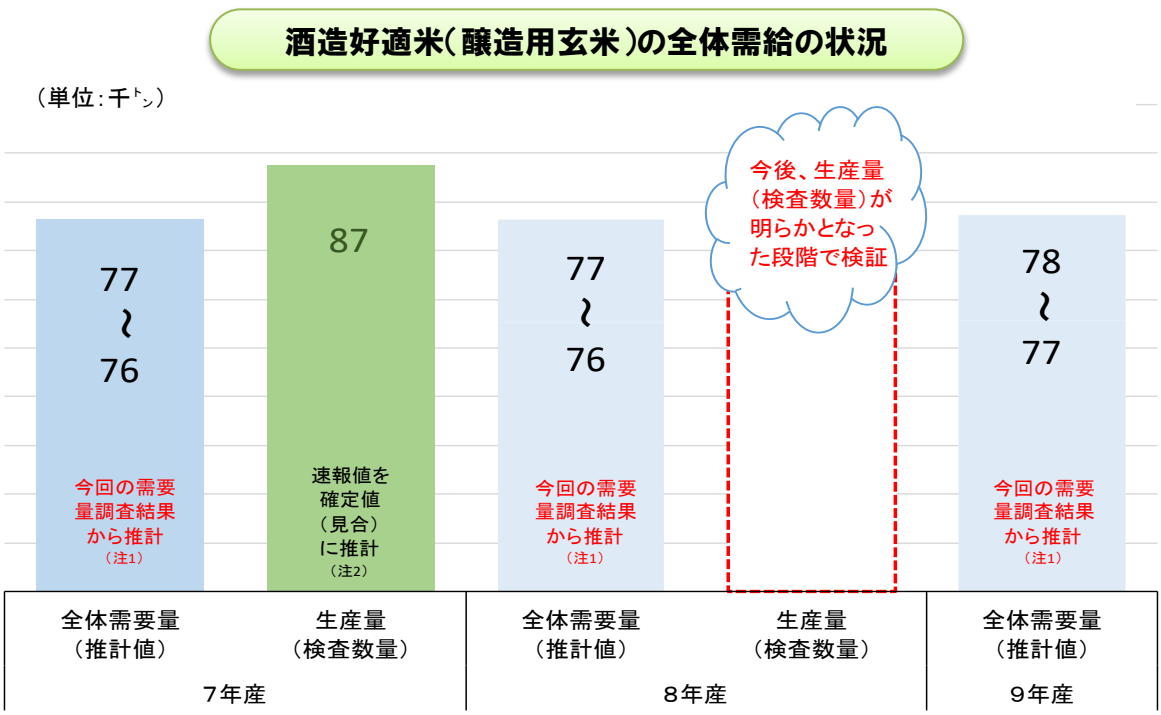
酒造好適米の全体需給の推計

農林水産省が本年７月に行った「酒造好適米等の需要量調査」の結果をまとめました。
より詳細な調査結果の内容は、下記ＵＲＬよりご参照ください。
また、令和８年１０月５日に「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催したところであり、その概要については、同ＵＲＬに追って掲載します。
【 https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html 】

- 今回の需要量調査によると、令和７年産の全体需要量（推計値）は76～77千㌧程度、令和８年産の全体需要量（推計値）は76～77千㌧程度、令和９年産の全体需要量（推計値）は77～78千㌧程度と見込まれます。
- 令和７年産については、生産量（推計値）が全体需要量（推計値）を10～11千㌧程度上回っているものの、生産及び実需の関係者からは、実際には集荷量のほぼ全てが酒造メーカーと結び付いており、過剰感はないとの声が多く、その差は全体需要量を聞き取り結果（回答率約６割）から推計していることによるものと考えられます。
- 令和９年産については、令和８年産の生産動向及び酒造メーカーからの最新の需要動向等を踏まえ、各産地において、今後、全体需要量が変動する場合があることに留意するとともに、引き続き需要に応じた生産に取り組むことが重要です。



注1： 各年産の全体需要量（今回推計値）は、今回の需要量調査の数量ベース回答率が、令和6年産酒造好適米の全体需要量（80～81千㌧）と今回調査の令和6年産の需要量（約58千㌧）から約71～73%と推計されるため、各年産の今回調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。
注2： 生産量は、農産物検査数量（醸造用玄米）の値。ただし、令和7年産は、令和8年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。

令和８年度酒造好適米等の需要量調査結果の概要

・　昨年に引き続き、酒造好適米の需要量を把握するため、日本酒の酒造メーカーを対象として本年７月に需要量調査を実施しました。

調査の概要

	令和７年度	令和８年度
調査期間	令和７年８月	令和８年７月
調査対象メーカー数	1,228社	1,190社
回答酒造メーカー数	780社	744社
回答率（数量ベース）	73～74%	71～73%

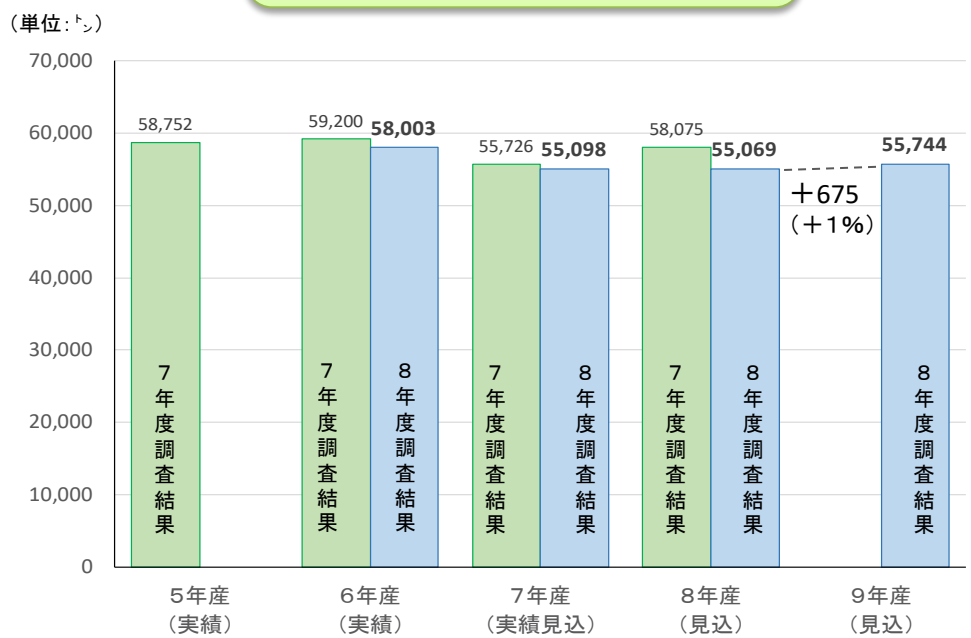
酒造好適米の需要量調査結果

・　今年度の酒造好適米等の需要量調査において回答のあった酒造メーカーの令和９年産酒造好適米の需要見込みは、合計で56千㌧と令和８年産に比べて＋１%増加するという結果になりました。

・　令和８年産の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和７年産に比べて＋４%でしたが、今年度の需要量調査においては、令和７年産と同程度となっています。

・　令和９年産の生産に当たっては、各産地において、令和８年産の生産動向及び酒造メーカーからの最新の需要動向等を踏まえ、生産者と実需者が連携し、令和９年産の作付計画に反映する必要があります。

酒造好適米の需要量調査結果

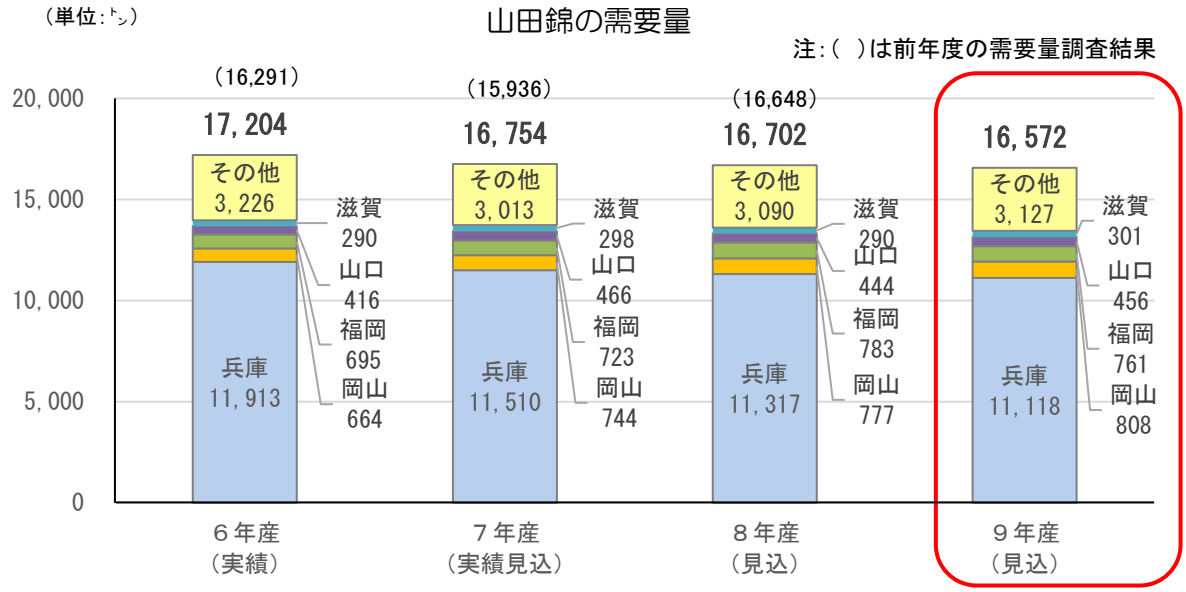


注：7年度調査、8年度調査は、それぞれ客対数が異なるため、直接比較できないことに留意。

主な酒造好適米の需要量（酒造メーカーからの回答分）

山田錦

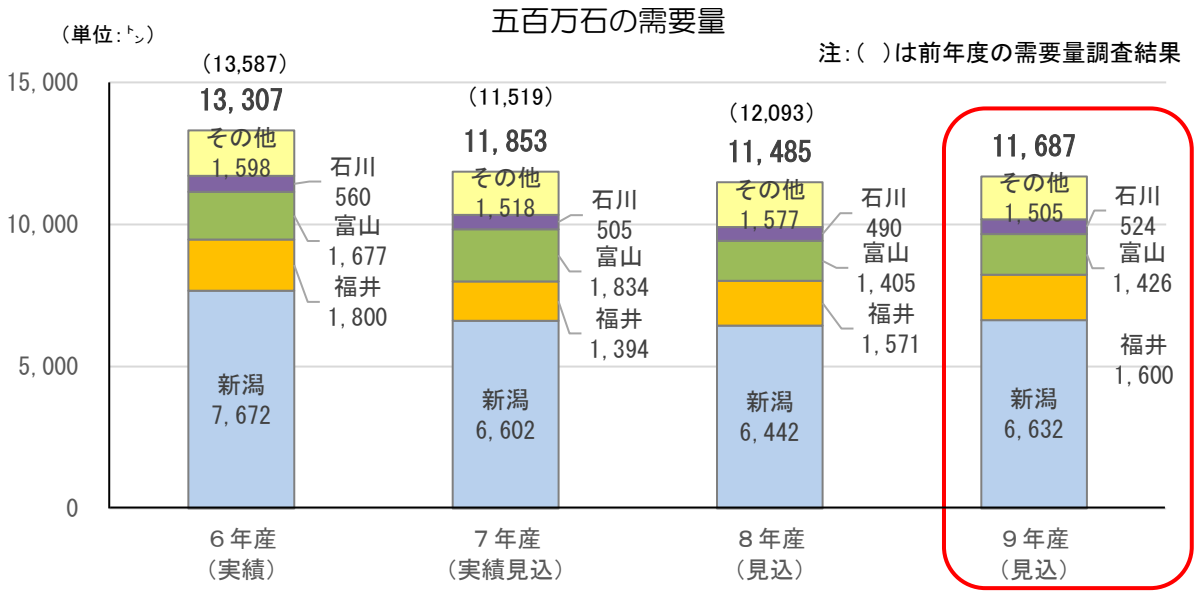
○　令和９年産の山田錦の需要量は、令和８年産に比べて▲１%程度となっています。
○　令和８年産の山田錦の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和７年産に比べて＋４%でしたが、今年度の需要量調査においては、令和７年産と同程度となっています。



【参考】山田錦の生産量（検査数量）　　令和８年度調査結果
6年産　33,842　　7年産（推計値）　32,678

五百万石

○　令和９年産の五百万石の需要量は、令和８年産に比べて＋２%増加となっています。
○　令和８年産の五百万石の需要量は、令和６年産に比べて▲11%程度と大幅に減少した令和７年産からも▲３%と減少しています。



【参考】五百万石の生産量（検査数量）　　令和８年度調査結果
6年産　17,650　　7年産（推計値）　14,380

日本酒の国内出荷状況

○　日本酒の国内出荷量は、他のアルコール飲料との競合などにより減少傾向で推移し、令和７年は約37万kℓまで減少しています。

○　令和８年（１－７月）においては、対前年同期比▲５％（特定名称酒は▲４％、一般酒は▲６％）となっています。

日本酒の国内出荷量の推移

（千kl）

	平成10年	15年	20年	25年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	7年（1～7月）	8年（1～7月）	対前年同期比
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	580	495	467	419	404	404	390	378	368	194	184	95%
特定名称酒	291	221	174	164	171	165	142	138	145	146	143	141	73	70	96%
吟醸酒	34	30	20	21	23	22	20	19	20	19	19	18	9	8	92%
純米吟醸酒	25	26	24	29	45	45	40	42	46	48	47	47	25	24	97%
純米酒	62	54	57	58	64	62	55	53	55	55	55	55	29	28	97%
本醸造酒	169	111	73	56	38	35	27	24	25	24	22	21	10	10	94%
一般酒	842	650	485	416	324	302	276	266	259	245	234	228	120	113	94%

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和７年は概算値。石川県のデータが令和５年12月以降一部未集計。
注１：日本酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。一般酒は日本酒国内出荷量から特定名称酒の数量を差し引いて算出。
２：国内出荷量には輸出量は含まれていない。

日本酒の輸出状況

○　日本酒の国内出荷が減少傾向にある中、輸出量は、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しています。

○　令和７年の輸出量は、中国等への輸出の増加により、対前年比＋８％と増加しています。また、令和８年１－８月の輸出量は、中国、韓国等への輸出減少により、対前年同期比▲４％となっています。

日本酒の輸出量の推移

（千kl）

	平成10年	15年	20年	25年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	7年（1～6月）	8年（1～6月）	対前年同期比
日本酒輸出量	8	8	12	16	26	25	22	32	36	29	31	34	22	21	96%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	6	6	5	9	9	7	8	8	5	5	96%
中華人民共和国	0	0	0	1	4	5	5	7	7	6	5	7	4	4	91%
香港	1	1	1	2	2	2	3	3	3	2	2	2	1	1	102%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	90%
大韓民国	0	0	2	4	5	3	2	2	4	4	5	5	4	3	93%
その他	2	2	3	4	6	6	5	8	10	7	8	9	5	6	103%

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

以上のほか、詳細な情報は、以下ＵＲＬにより「日本酒原料米をめぐる状況」及び「酒造好適米等の需要量調査結果」を参照ください。
ＵＲＬ：https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html